

令和2年度の事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人やまびこクラブ

1 事業の成果

今年度のこども発達支援事業所さくら（児童発達支援事業）は、障がいのある子や発達に心配のある子とその保護者を対象に療育を提供することで、子どもの成長を促し、保護者が感じている子育ての困りを一緒に考えることが私たちの仕事となっています。

言葉が出ない、動き回って困る、指示が通らない、視線が合わないなど保護者の不安は多岐にわたります。しかし、子どもの障がいや特性を理解すると今までの疑念が我が子の自然な行動と認めることもできるようになるのです。そんな我が子への理解が、子育ての安心感につながるということが、今までの私たちの活動の中で明らかになったことだと言えます。

最近の傾向として、さくらを利用する前に保育所や幼稚園を利用していたケースが多くなり、困り果てた状況でさくらの利用を考える家庭や子どもの状況をしっかり理解したうえで利用する家庭が多くなってきています。それでも、発達の不安や心配は尽きません。

一つ一つの課題を解決し、じっくり保護者と話をすることが今まで以上に重要だと感じる1年でした。

放課後デイサービスさくら（放課後等デイサービス事業）の登録利用者数は、15名でした。放課後デイサービスが各地域に整備されるようになり、供給面の充実で少ない登録者数となり多様なニーズに応えられるようになりました。それでも、利用児童生徒の居住地は3市あり、通学している学校も3校あり終了時間が違ったり、行事等がバラバラなため調整が難しい状況です。

ただ、当事業所では、児童クラブと同じ時間に同じように活動しているため、開放的な空間の中、多くの子どもとの交流ができ、刺激的な場と思われれます。その中で、一緒に遊ぶだけでなく思わぬトラブルがあったり、良い体験の場でもあります。年齢が高くなればなるほど障がいの特性も確立されている子どもも多く児童クラブの児童も一緒に遊びやすいと感じているようである。特異的な障がい特性である行動や振る舞いや言葉使い等も子ども達にとって見ると面白い人として認めてくれているように感じます。

この時期の交流や経験は、障がいのある方が将来社会の一員として交流するときに重要で大切と思われるだけにさらにいいものにしていきたいと思います。

地域活動支援センター事業は、地域活動支援センターの活動目的として障がいのある方でも働くことによって喜びを感じ、生活の一部になり、それが当たり前になるように観念にとらわれずにそれぞれの力を引き出していきたいものである。地活事業の登録してくれている利用者は9名ほどいますが、3名の重度心身障がい者と2名の重度の自閉症の方、重複障がいの方、他施設に馴染めずに行くところなくなった方など無理をせずに日中を楽しく過ごすことが目標になりそうだが、クッキーを作ったり、弁当の配達や回収、買物などそれぞれの人に合わせた仕事や作業を提供すると意欲的に取り組んでくれる。仕事をすることでみんなが注目するし、注意を受けることも褒められることも人として有用感を感じることに繋がっていると感じます。

児童館及び児童クラブ事業では、児童館活動および児童クラブ事業では、少子化の影響、保護者の意識の変化、ニーズの多様化等により以前と違って活動内容や対応する職員の意識の変化が不可欠となった。少子化の影響は、社会的な現象だけでなく子どもに対する事業や活動にも変化せざるを得ない状況となっています。女性が活躍する場も多くなり女性の晩婚化や未婚化、また核家族化は少子化に拍車をかけていると考えられるが、津久見市では、人口減少による子どもの減少が大きいと考えられる。また、保護者の意識の変化により、育児サークルや母親クラブ等を自分達で運営することを嫌がる保護者が増え、実施主体のある育児サークルへの参加に偏っている現象が以前と大きく変わっているように感じます。また、福祉サービスを利用することが

当たり前の社会になったことで保護者が困っていることをはっきりと主張することでニーズが多様化している要因になっているのではないかと思います。それぞれに対応する事を求められますし、次代の変化にうまく順応していかなければと思います。ただ、過剰なサービスやできないことを無理に応えようとするのではなく、子ども達の状況や環境をしっかりと見守り、適切な対応、活動をしていきたいものであります。

地域貢献活動としては、年度末に新型コロナウイルスの感染者が増大する中で、緊急事態宣言の発令があり、不特定多数の人を集めたイベント等の自粛で例年実施しているフォーラムや映画上映会等も自粛せざるを得ない状況となった。障がいのある方が地域で安心して暮らせるように地域の中に良き理解者を増やすための啓発活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から感染症のリスクがある以上は、止むを得ない判断と考えます。

ただ今年度は、地元の津久見高校と津久見市と協働して高校生の児童クラブへのバイトを通して、地域に貢献するという取り組みを行い80名弱の生徒が4つの児童クラブで労働を通して地域の児童と交流し、子どものことを感じ、理解することで将来に繋げてもらうことを目的に実施しました。当事業所に参加してくれた生徒には福祉に関心を持ってもらうことや障がいの子どもの交流など将来の良き理解者候補になってもらえればと思いました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従業者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	児童発達支援事業 放課後等デイサービス事業 障がいのある子どもへの療育の提供及び保護者に対して子育て支援 共同生活援助事業 障がいのある人の地域生活の 地域生活支援事業 地域活動支援センターを開設し、利用者の日中活動支援や学習支援及び就労支援など利用者のニーズに基づいて活動する。	(A) 4月1日から翌年3月31日まで開設 (B) ・こども発達支援事業 主たる事務所に併設している療育施設 ・共同生活援助事業(グループホーム桜ヶ瀬) 地域生活支援事業 地域活動支援センターぱれっと (C) 32名	(D) 津久見市、臼杵市、佐伯市に居住する当該施設に通所する児童と家族 (E) 発達支援事業及び放課後デイサービス事業に登録している方23名 年間延べ人数 5,546名 地域生活支援事業 契約利用者21名	71,932
児童館、放課後児童健全育成事業	子育て支援している団体やサークル等への支援及び青江小学校に通う子どもの放	(A) 4月1日から翌年3月31日まで開設	(D) 育児サークルの会員及び児童クラブに登	14,474

	課後及び長期休暇中にお預かりし、健全な育成活動を行う。	(B) 主たる事務所に併設している児童クラブ (C) 7名	録している児童と家族 (E) 利用者延べ人数 9,389 名	
母親クラブ	子育てをしている仲間で相互の悩みや相談活動及び交流活動を行う。	実施していません。		—
障害者の地域への参画促進と障害に関する啓発活動	虐待事例を通して障がいのある方の地域での生活に必要な支援や地域の資源を考えるフォーラムと映画上映。	新型コロナウイルス感染症予防のため自粛		0

令和2年度 活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人やまびこクラブ
(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1 受取会費		
入会金収入	14,000	14,000
2 受取助成金等		
障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業収入	71,932,146	
放課後児童健全育成事業収入	10,744,000	
放課後児童健全育成事業収入(感染症対策)	3,730,940	86,407,086
3 負担金収入		
利用者負担金収入	4,731,428	4,731,428
4 事業収益		
事業収益	5,498,903	5,498,903
5 寄付金収入		
寄付金収入	210,000	210,000
6 その他収益		
受取利息	93	
雑収益	4,081,025	4,081,118
経常収益計		100,942,535
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	58,974,766	
臨時雇賃金	294,130	
退職金	1,600,000	
法定福利費	5,499,813	
福利厚生費	1,194	
人件費計	66,369,903	
(2) その他経費		
旅費交通費	6,910	
通信運搬費	4,585,252	
消耗什器備品費	2,152,944	
消耗品費	1,524,032	
修繕費	711,350	
印刷製本費	163,945	
水道光熱費	2,656,520	
賃借料	7,538,224	
保険料	276,500	
租税公課	181,500	
教材費	998,229	
行事費	225,704	
給食材料費	4,439,954	
雑費	523,054	
その他経費計	25,984,118	
事業費計		92,354,021
2 管理費		
(1) 人件費		
福利厚生費	153,005	
人件費計	153,005	
(2) その他経費		
通信運搬費	385,646	
消耗品費	75,985	
修繕費	330,145	
賃借料	1,366,000	
保険料	1,045,072	
租税公課	139,900	
諸会費	373,600	
寄付金支出	12,500	
雑費	1,150,421	
その他経費計	4,879,269	
管理費計		5,032,274
経常費用計		97,386,295
当期経常増減額		3,556,240
III 経常外収益		
1 過年度損益修正益		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1 過年度損益修正損		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		3,556,240
当期正味財産増減額		3,556,240
前期繰越正味財産額		21,354,471
次期繰越正味財産額		24,910,711

令和2年度 貸借対照表

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人やまびこクラブ
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	12,267,410		
未収金	17,190,649		
前払金	100,000		
立替金	61,900		
仮払金	48,752		
流動資産合計		29,668,711	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具	4,206,820		
什器備品	1,380,624		
有形固定資産計	5,587,444		
固定資産合計		5,587,444	
資産合計			35,256,155
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	5,795,870		
預り金	499,574		
流動負債合計		6,295,444	
2 固定負債			
長期借入金	4,050,000		
固定負債合計		4,050,000	
負債合計			10,345,444
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		21,354,471	
当期正味財産増減額		3,556,240	
正味財産合計			24,910,711
負債及び正味財産合計			35,256,155

令和2年度 財産目録

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人やまびこクラブ
(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
手元現金	187,008	
大分銀行普通預金	11,661,274	
九州労働金庫普通預金	419,128	
未収金		
未収金	17,190,649	
前払金		
前払金	100,000	
立替金		
立替金	61,900	
仮払金		
仮払金	48,752	
流動資産合計		29,668,711
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	4,206,820	
什器備品		
ジョイントコーナーマット	280,000	
ガスオーブンレンジ	261,724	
ノートパソコン	137,300	
テラステント	399,600	
机・椅子等	302,000	
有形固定資産計	5,587,444	
固定資産合計		5,587,444
資産合計		35,256,155
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金		
給料手当等	4,033,029	
その他諸経費	1,762,841	
預り金		
源泉所得税預り金	54,170	
市県民税預り金	115,000	
従業員預り金	330,404	
仮受金		
仮受金		
流動負債合計		6,295,444
2 固定負債		
長期借入金		
個人借入金	4,050,000	
固定負債合計		4,050,000
負債合計		10,345,444
正味財産		24,910,711